

課 題	継続 新規	継続	経常 特別	担 当	造林課 技術開発課	開発 箇所	武雄	期 間	自 54年度 至 58年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
												千円				
目的	トランクター集積跡地の植栽木の生育状況は、非常に劣っており、この原因と対策について究明する。															
全体計画		実施経過			当 年 度 分											
					実施計画				実施結果				評価および普及計画			
1. トランクター集積跡地の 実態調査 2. 更新障害の原因の究明					1. トランクター集積跡地の現地調査 2. 更新障害の原因の究明				1. トランクター集積跡地の植栽木の生育不良の原因について、検討を行った。 現地調査等については55年度に計画する。							

(指導管理課題)

昭和57年度技術開発実施報告書

課 題	経 費 別 類 別	経 常	担 当	開 発 箇 所	期 間	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
								物件費	役務費	人件費	計	千円
	継続	1-カ		造林課	武雄	昭和57年度 昭和58年度						
	トラクタ集材跡地の更新法											
目 的	トラクタ集材跡地の更新地の植栽木は折損など活着率が低く、生育状況にも差がみられるのでこの原因を究明し、更新技術を開発する。									人		
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 度 分								
				実 施 計 画			実 施 結 果			評 価 お よ び 後 及 計 画		
1. トラクタ集材跡地の更新地の実態調査 ①, 地形, 状況別, 樹種別 ア, 活着率, イ, 生長量 2. 活着率向上の方法 ①, 折損原因の究明 ②, 改良策の検討 3. 生長促進の方法 ①, 生長阻害要因の究明 ②, 改良策の検討 4. 更新技術の体系化		1. トラクタ集材跡地の植栽木の生長不良の原因について検討。		1. トラクタ集材跡地の更新地の実態調査 2. 活着率向上及び生長促進の方法の検討。			昭和57年度より各署トラクタ集材を中止したため本調査も中止した。					

課題名	トラクタ集枝跡地の更新法					
課題区分	指示	開発期間	54~58	担当	世知原担当已執	
目標	トラクタ集枝跡地の更新は植栽木の活着が悪く、又、成育状況も他ヶ所に比べ著しく劣る。この原因を究明し更新技術を開発する。					
結果	スギ実生苗造林技術の定着、スギ実生苗の導入により活着率が向上し、補植率が低減した。又、成長も著しく優良林分を形成しつつある。					
施業及び作業の内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
	伐採の方法					
	樹種					
	林齢	年				
	胸高直径	cm				
	樹高	m				
	40当たり本数	本				
材積	m ³					
開発経過と調査内容	<p>1. 昭和54年度、スギ実生苗導入 スギ、39,000本</p>					

<p>2. 昭和55年3月 トラクタ集枝跡地 4.14ha、12,600本 植付完了</p> <p>3. 昭和54年度 トラクタ集枝廃止</p> <p>4. 昭和56年度 実生苗の100%導入</p>
<p>評価及び普及指導</p> <p>昭和58年度は苗木需給調整のため実生苗の比率は72%であり、昭和56年度~昭和57年度は100%であった。 成林にスギ実生苗の美林が多く、又、造林地の成長も一般的に著しいので今後自実生苗の導入を図りたい。</p>

試験経過記録

区分 指示

武雄 営林署

(様式4)〜1

課題 トラクタ集枝跡地の更新法

当営林署において、トラクタ集枝跡地の更新は、植栽木の活着が非常に悪く、枯死率が高いため、毎年補植の必要が生じ、又、成長も他に比し著しく劣っていた。そこでこのトラクタ集枝跡地に、当地方の民有林で昔から植栽され優良材が多くなり、又、販売面でも高価で取引され有利である、スギ実生苗を導入し、昭和54年度、スギ実生苗 29,000 本を導入し、内、12,600 本をトラクタ集枝跡地、6区番 4.14 ha に植栽した。

トラクタ集枝は、昭和54年度を最後に廃止されたため、トラクタ集枝跡地の更新法としての実生苗の導入は中断したが、昭和55年度以降は、トラクタ集枝跡地以外の更新地にも導入し、優良造林地の育成に努めている。

(昭和53〜58年度 スギ実生苗導入の推移)

年度	スギ 植栽本数	実生苗 本数	比率 %	備考
53	52,400	(6,400)	(12)	ホソバ苗
54	68,200	29,000	57	
55	62,400	44,800	72	
56	53,200	53,200	100	
57	38,500	38,500	100	
58	40,400	29,200	72	苗木需給調整のため

(スギ補植率の推移表)

年度	スギ 植栽本数	補植本数	率 %
53	52,400	17,700	34
54	68,200	14,700	22
55	62,400	4,000	6
56	53,200	4,400	8
57	38,500	2,100	5
58	40,400	300	1

記載要領

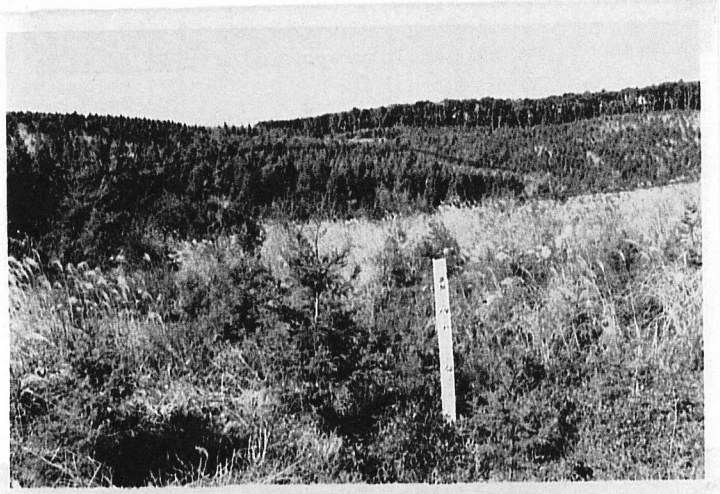
1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区 分 指 示

武 雄 營 林 署

(様 式 6)



西ノ岳国有林 124カ、林小班

- ・昭和53年度トラクタ集材ヶ所
- ・昭和54年度スギ実生苗、4,300本、1.44ha植栽
昭和59年11月現況写真。
- ・全般的に成長状況は良好であるが、写真手前
土場敷跡、及び走行回数が多かつたヶ所については
補植により、活着はしているが成長は他と比較劣る。



世知原板山国有林 111カ、林小班

- ・スギ63年生、実生苗人工造林地美林

状 況 写 真

区 分 指 示

武 雄 營 林 署

(様 式 6)



← 近 景



遠 景 →



大野板山国有林 112. 林小班

- ・昭和54年度トラクタ集材ヶ所
 - ・昭和54年度、スギ苗木 3,500本、1.5m植栽
- 昭和59年11月 現況写真

平均樹高 $\frac{3m}{2\sim 4m}$ ・平均胸高直径 $\frac{5cm}{3\sim 8cm}$

- ・重トラクタ道を走行し、林内の影響が少なく、著しい成長を示している。